

平成 29 年度

第 62 回 長野県中学校連合教科研究会

保健体育科

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	趣 旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	実践発表校一覧、指導者名・・・・・・・・・・・・	1
IV	研究問題と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・	2～5
V	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	5
VI	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5

I 研究テーマ

一人一人の生徒が自ら進んで運動に取り組み、運動の楽しさや喜びを味わうことができる体育学習や、健康の大切さを理解し実践力を育てる保健学習はどうあったらよいか ～教材化の工夫と評価計画～

II 趣旨

生徒一人一人が技能を追究していく場面と、友と協力して課題を解決していく場面の関係性を明らかにし、教材化に視点をあてて検討していきたい。また、日頃の授業実践を重ねるうえでの悩みや課題を出し合い、それぞれの学校での取り組みや指導上の工夫を共有して、明日からの指導に生かせる会にしたい。

III 実践発表校一覧・指導者名

- 第1分科会 指導者 清水 直人 先生 (東信教育事務所指導主事)
世話人 有賀 浩之 先生 (信州大学教育学部附属松本中学校)
- 第2分科会 指導者 齋藤 和久 先生 (南信教育事務所指導主事)
世話人 中塚 洋介 先生 (信州大学教育学部附属長野中学校)
- 第3分科会 指導者 柳澤 誠 先生 (長野県教育委員会スポーツ課指導主事)
世話人 胡桃澤輝彦 先生 (信州大学教育学部附属松本中学校)

【第1分科会】

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	下伊那	17	緑ヶ丘中	「卓球」～チームで向上!めざせドライブ名人～: 2年
2	長水	25	飯綱中	「バドミントン」バドビンゴゲーム: 3年
3	松本	25	附属松本中	「フロアバレーボール」: 3年
				実践発表者3名, その他3名 計6名

【第2分科会】

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	下伊那	10	泰阜中	「マット運動」: 1年
2	下伊那	13	大鹿中	「マット運動」～倒立前転を入れて4つの連続技に挑戦しよう～: 1年
3	下伊那	8	阿南第二中	「バスケットボール」: 1年
4	長水	32	附属長野中	「ダブルバウンドテニス」: 2年
				実践発表者4名, その他2名 計6名

【第3分科会】

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	松本	11	筑摩野中	「ダンス」現代的なリズムのダンス: 2年
2	飯水	1	栄中	「剣道」: 1, 2年
3	長水	32	附属長野中	「ダブルバウンドテニス」: 2年
4	松本	25	附属松本中	「フロアバレー」: 3年
				実践発表者4名, その他2名 計6名

IV 実践発表と協議内容

【第1分科会】

1 緑ヶ丘中学校 近藤 直先生の実践発表

「運動の楽しさを味わい深めていくための指導はどうあったらよいか」

(1) 発表されたこと・話し合われたこと

- ・タブレットを授業で活用し、技能を高めたり友とのかかわりを増やしたりしていく授業を構想した。自分のフォームを撮影するほかに、卓球のドライブの打ち方や玉の回転、ラリーの様子がわかる動画を教師が作成し、いつでも見られるようにタブレット内に保存した。
- ・効果的にタブレットを使用していくための工夫が必要だと感じた。タブレットを使用していく上での生徒の必要感をとらえていくことも大切であった。

(2) 指導者の先生のご指導

- ・教師の示範動画が活用されなかったのは、生徒の意識や技能の段階とにずれが生じていたと考えられる。単元のどの段階ならば生徒が必要感をもって活用するか、目的や方法等をさらに明らかにしていきたい。
- ・「手はおでこの高さまで」など、動きのポイントを示してあげていることがよい。そのポイントを動画だけでなく、画像（静止画）や言葉と対応させて提示することも大切な支援となる。タブレットを用いて何を撮るか、何をみさせるのか、その視点を明確にしておくことが大切である。
- ・タブレットについては、他教科での活用方法を参観したり情報共有したりすることも参考になる。

2 飯綱中学校 石坂 優子先生の実践発表

「心と体を開き、仲間と関わり合いながら、運動の楽しさを作り出していく授業展開」～運動を通して身体・仲間との関わりを創造する保健体育学習～

(1) 発表されたこと・話し合われたこと

- ・バドミントンにおいて、意図的なコースの打ち分けやフライトを引き出すため、コートを9分割してビンゴの要素を取り入れた。正確に狙おうという意識が強くなった反面、点を取り合うというバドミントン本来の特性を味わうことができたか疑問が残った。また、ルールがやや難しく、理解に時間を要した。
- ・単元の導入場面で、手作りしたシャトルを打ち合ったり～したりするなど、生徒が思いを寄せられるような出会いの場面を工夫できた。

(2) 指導者の先生のご指導

- ・コースを打ち分けるという意識付けの面では、「バドビンゴ」は効果的な教材であるが、「点の取り合い」というバドミントン本来のおもしろさも大切にしたい。ドリルゲームとして活用していくことも有効。
- ・生徒は、気付いたり試したりを繰り返しながら技能を高めていた。最終的に、どんな技能をどこまで高めていくかということについて、単元のまとめりとして見通すようにしたい。

3 附属松本中学校 有賀 浩之先生の実践発表

「仲間や社会とつながる中で運動の楽しさをとらえ直し、運動へのかかわり方を広げていく保健体育の学習（フロアバレー）」

(1) 発表されたこと・話し合われたこと

- ・体育理論で示されている内容を実感を伴って学べるよう、実技とを結びつけて教材化を行った。
- ・フロアバレーという盲学校を中心に行われている運動を教材化して行った。視覚障害をもった方との交流により、運動のとらえ方が変わった生徒の姿に出会うことができた。

(2) 指導者の先生のご指導

- ・中3段階の「球技」として考えたときに、転がっているボールを操作するフロアバレーは技能面で容易であり、高校への接続という点でさらに検討が必要か。学習指導要領で示されている技能ともつなげたい。
- ・体育理論を、実技を通して実感を伴って学ぶことは有意義。生涯スポーツとのつながりをより意識した体育学習のあり方について、その具体的な取組を考えていく一つの機会となる。

文責者 信州大学教育学部附属松本中学校 有賀 浩之

【第2分科会】

1 泰阜中学校 林 高大先生の実践発表

「初任者として①生徒の願いを大切に単元展開を具体的に考えること ②1時間の授業の組み立てを考え実践することに重点をおいて取り組んだ(マット運動)」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・生徒同士の関わりをに関して、同じ技を追究したい生徒同士のグルーピングや能力差があるグルーピングの仕方と目的に合わせて行う必要があるということ。

(2) 指導者からのご指導

- ・分かったことが即できることにはつながらない。試行錯誤しながら身に付けていく過程を充実させたい。運動のポイント、映像から見てわかるポイントと、試行して感じて分かるポイントの2つに分けて整理したことは、そのための支援として効果的であった。

2 大鹿中学校 黒岩健一先生の実践発表

「少人数で、運動能力にばらつきがある生徒たちが、同年齢又は異年齢集団で活動する場で活発にアドバイス活動ができるようになるための構と評価の仕方はどうあったらよいか(マット運動)」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・連続技を4つに設定した理由は、小学生の時に3つの連続技を行い、5つだと多いと感じたため。
- ・倒立からブリッジや回転する練習を最初に行うことで、けがの防止や倒立することへの恐怖心を和らげることにつながる。

(2) 指導者からのご指導

- ・アドバイス活動は、アドバイスされる側だけでなく、する側にとっても自分の課題や課題に即したポイントを確認できるというよさがある。互いにアドバイスし合う観点を明確にするための支援を大切にしたい。

3 阿南第二中学校 圓山大基先生の実践発表

「自ら問題を持ち、友と考え合う活動を通して、解決していく授業のあり方(バスケットボール)」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・球技にしかないこと、主にボールを持たないときの動きについて考えられるようにする必要がある。
- ・生徒にとって、バスケットボールはゴールが高くボールが重く扱いにくい。また、ゴール下に密集してしまう様子が多くみられる。こうしたことを踏まえて場や人数、ゲームの内容を工夫することが大事になるのでは。

(2) 指導者からのご指導

- ・つける力を明確にするとともに、子どもの気づきや意識を大事にした単元展開を考えたい。生徒の意識の流れをつくったり、生み出したりする教師の意図的な働きかけを大切にしたい。
- ・生徒が学びを深めるために、技能の向上は不可欠。技能向上の基盤となる体力を高めるための補強運動も効果的に位置付けたい。

4 附属長野中学校 中塚洋介の実践発表

「習得した知識や技能を活用して課題解決をする力を高める指導の在り方(ダブルバウンド・テニス)」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・わかることとできることには大きな差、隔たりがある。そのために、確認したことをコート上でゆっくりと再現してみることは、①実際の状況・距離感をつかみやすくなる、②周りで見ている生徒がアドバイスしやすくなるといった2つの利点がある。
- ・バレーボールが1年次に行われるアタックプレルボールだけという状況に対して、オーバーハンドパスによるトスやスパイクといった技能の習得、高校との接続はどうかという意見があった。逆に既存のルールを経験させることも大事だが、やさしくすることも必要なのではという意見もあった。

(2) 指導者からのご指導

- ・体育の授業で運動嫌いをつくらないためにも、友とのかかわりや技能を追究する運動の楽しさを体育の授

業で保障したい。すべての生徒が、攻防の課題をチームで協同して追究する球技の面白さを味わえるようにするために、既存のルールを易しく修正することは不可欠である。

文責者 信州大学教育学部附属松本中学校 友保 雄貴

【第3分科会】

1 栄中学校 牛久保裕介先生の実践発表

「一人ひとりが課題をもち、主体的に学習するための支援のあり方（剣道）」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・剣道の目指すゴールが分かりづらい。型ということも大切であり、崩してはいけないようなこともあるようで、生徒の実態に合わせた単元展開に悩んでしまう。
- ・新聞切り、ボールを打つ、新聞紙で作った刀など教材の工夫も大切。剣気体すべてを求めずに一つに絞ると、審判もやりやすくなる。攻守分離方も有効だが、そのあとの展開まで考える必要がある。

(2) 指導者からのご指導

- ・武道への壁が教師にあり、それが生徒につながっているのではなか。まずは、シンプルでもよいので教師が目指すゴールをもちたい。教師も生徒ものめり込みたい。
- ・3年生が球技と剣道がセットになっているのは、攻防（チャンスをつうる、つくらせない）が一体であるから。崩してはいけないことはあるが、安全面だけは崩さないようする。
- ・生徒の問いに合わせて、技を学んでいく単元展開もある。

2 附属長野中学校 中塚洋介先生の実践発表 発表者：越田真二先生

「習得した知識や技能を活用して課題解決する力を高める指導の在り方（ダブルバウンドテニス）」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・練習方法を提示することもあるが、グループごと違う課題やより高度な課題が出てきたときに、教師から課題を提示するののかのさじ加減が難しい。
- ・生徒の問いを位置付けて単元展開をしている。

(2) 指導者からのご指導

- ・提示するかしないかは、それぞれの経験や技能などの構造を教師が分かっていること。子どもが見方、考え方をつかって解決できるような、前半の単元展開や声かけが必要。
- ・ボレーに着目し、その楽しさを味わえる展開にしているからこそ、ここまで学びが繋がっている。映像がなくても、生徒同士のかかわりで学びを深めている。主体的・対話的な学びである。

3 筑摩野中学校 村松康平先生の実践発表

「運動の楽しさを実感し、仲間とかかわりながら学習を深めていくことができる保健体育学習（現代的なリズムのダンス）」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・どの学校でも、模倣になっている。基本的な動きを学んで財産を作ることも大切になる。小学校から、リズムを生かした表現（動き）を大切にしていきたい。
- ・ダンスはどこの学校でも、単元展開に苦しんでいる。

(2) 指導者からのご指導

- ・完全コピーで展開すると、学習内容として問われると「動きを覚える」になるが、ダンスの特性とは言えない。
- ・ダンスは奥が深い。導入での工夫や自分はここにいるという自己表現が根源であることを大切にしたい。

4 附属松本中学校 有賀浩之先生の実践発表 発表者：胡桃澤輝彦先生

「仲間や社会とつながる中で運動の楽しさをとらえ直し、運動へのかかわり方を広げていく保健体育の学習（フロアバレー）」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・技能をどう評価しているのか。前衛の生徒はどのような問いが生まれていくのか。
- ・球技のネット型としてどうなのか。1年でスモールサイズでのバレーを経験しているが、2年ではネット型なし、3年でフロアバレーというつながりはどう考えるか。ネット型の特性を発展的に学習できているか。

(2) 指導者からのご指導

- ・扱う意味を考えたい。経験や体育理論では意味がある。しかし、1～3年、高等学校へのつながりはどう考えているか。
- ・簡単な運動から入るという意味では使える。メインの学習内容とは別に発展的な学習としてやるのはいいのではないか。

文責者 信州大学教育学部附属松本中学校 胡桃澤輝彦

V 本年度の反省と来年度の方向

項目	内容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ○よいと思う。教材化と評価を一体として考えていくことを大切にしたい。 ○テーマの大幅な変更は必要ない。 ○適当。運動が苦手な生徒に対する手立て、教材化の工夫など様々な面から考えることができた。
○本年度の研究の成果と来年度の研究の方向について	<ul style="list-style-type: none"> ○教材化に視点が当てられ、明日からの実践で使える工夫に出会うことができた。 ○様々な単元の実践発表を聞き、色々な見方、考え方を学ぶことができた。 ○どのような技能を身につけさせるのか、どこまで求めるのか、技能面についても研究を深めていきたい。 ○評価の面について追究がなされるとさらによい。 ○保健の実践事例やレポートの提出があるとさらによいと感じた。
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ○他校の実践事例を共有する時間はとても参考になった。初任者にとって授業の幅を広げる充実した時間となった。 ○希望者のみのレポート発表の形は参加しやすく感じた。形式も自由な形が許され、発表しやすい環境だった。 ○参加費の補助も大変ありがたかった。 ○時間配分が最初に提示され、研究会の見通しが立てられてよかった。 ○日頃困っていること、悩んでいることの情報交換の時間はありがたかった。 ○事前に「○分以内で発表をお願いします」と連絡しておけば、発表者も事前の心構えができ、会も予定通り進むと思われる。 ○実践発表の人数はよかったが、もう少し討議の時間が確保できると中身の濃い話し合いができるのではないかと感じた。 ○午後、実際に教材に触れる場があるのはありがたい。 ○午後のワークショップは時間をもう少し短くし、各校での悩みや課題の共有などの時間に充ててもよいと感じる。 ○午後の時間の使い方を、他教科の様子も参考に工夫したい。新学習指導要領について講師の先生から学ぶ、など様々な可能性を検討したい。
○研究会までの運営について	<ul style="list-style-type: none"> ○メールでの連絡がうまくできていない学校があり迷惑をかけた。正確に連絡できるよう確認を徹底したい。
○その他、運営全般にかかわって	<ul style="list-style-type: none"> ○特になし

VI あとがき

開催時期が変更となり、お忙しい時期にもかかわらず県下各地からお集まりいただいた先生方の熱心な発表と討議によりまして、第62回長野県中学校連合教科研究会が、大きな成果をあげて終わることができました。研究会に際し、レポートの作成、日頃からの実践等、本当にありがとうございました。

つきましては、生徒のためにさらに実践を重ね、お互いの励みとすることができればと思います。終日の研究会におきましては、熱心にかつ丁寧にご指導いただきました指導者の清水直人先生、齋藤和久先生、柳澤誠先生に心から感謝申し上げます。

来年度の研究会には、さらに多くの先生方の参加をいただき、有意義な研究会になることと、皆様には体をご自愛頂きまして、ますます日々の授業実践に励むことを願ひまして、まとめとさせていただきます。

委員長 有賀 浩之
副委員長 中塚 洋介